

B-29 日米合同慰霊祭：戦没した米兵を悼み、日米の絆を深める *B-29 Memorial Ceremony honors Airmen, deepens US-Japan bonds*

June 27, 2025

By Airman 1st Class David S. Calcote
374th Airlift Wing Public Affairs

静岡県静岡市発—6月21日、静岡県静岡市の賤機山(しずはたやま)の山頂で、恒例のB-29日米合同慰霊祭が開かれた。式典には、米空軍第374空輸航空団の空兵、航空自衛隊の隊員、地元の関係者が参列し、1945年6月20日の空襲の際、B-29の空中衝突で命を落とした米軍の搭乗員23名とこの空襲で犠牲となった約2,000人の地元住民に哀悼の意を捧げた。

この日米合同慰霊祭は、1972年に始まって以来、米軍人も継続的に参加し、半世紀以上にわたって営まれており、日米の戦争犠牲者を追悼するとともに、両国の揺るぎない友情と信頼を深める場となっている。

主催者である医師の菅野寛也氏は、「今年は横田基地の関係者に加え、アメリカ本国や他国からもご参列いただき、大変光栄に思います。皆様が集ってくださったことで、この慰霊祭の意義が一層深まりました」と語った。

式典では、参列者が献花と焼香を行い、犠牲者の冥福を祈った。また、米国と日本それぞれの伝統に則り、慰霊碑にバーボンと日本酒が注がれた。

第374空輸航空団司令官リチャード・マックエルハニー大佐は、「日米同盟はかつてないほど重要で、力強い時代を迎えています。この絆を築き上げた苦難を心に刻み、平和を維持するためにたゆまぬ努力を続けることを誓います」と述べた。

この慰霊祭は、1945年に命を落とした人々へ哀悼の意を表すとともに、平和と相互理解を育む日米双方の決意を新たにする場となった。また、かつて戦った両国が、いかに過去の出来事を乗り越え、永続的な同盟関係を築いてきたかを象徴する祭事ともなった。

